

番号	1		令和3年度公共事業再評価調書		担当課名 農地整備課	
事業名	畑地帯総合整備事業			事業主体	静岡県	
地区名	重須			関係市町村	沼津市	
事業採択年度	平成23年度		計画期間	平成23年度～令和5年度		
再評価理由	事業採択(H23)後10年間の経過した時点で継続中		工事着手年度	平成25年度		
事業費 (百万円)	全体計画事業費		R1年度まで	R2年度	R3年度見込	R4年度以降
	1,709		985	191	121	412
事業量	農道工 延長6,021m		947	905	861	3,308
	用水路工 延長3,600m		1,101	1,926	240	333
	区画整理工 面積1.8ha		1.6	0	0	0.2
	防災安全施設工 1箇所		0	1	0	0
事業概要	<p>(1)事業目的 道路及び用水路を整備し、走行経費の節減と作物の品質向上を図ることにより、みかんの生産、経営を安定させ、担い手を支援する。また、区画整理を施工し、営農経費の節減と作物生産の増大を図るとともに、大津波に備えるため、高台の住宅用地を創出し、定住環境の向上させ、農業集落を振興する。</p> <p>(2)事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道工：延長6,021m ・用水路工：延長3,600m ・区画整理工：面積1.8ha ・防災安全施設工：1箇所 					
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地区は伊豆半島の西海岸に位置し、古くからみかん栽培が盛んな地域であり、県東部地域の主要な産地である。高品質な「寿太郎みかん」ブランドの産地として、令和2年11月にGI登録され、農家の生産意欲も高い。しかしながら、海岸線沿いの急峻な山間地に樹園地があり、農業生産条件は非常に悪い。このため、本事業により農道整備、用水路整備及び区画整理を行い、営農条件の向上を図り、今後の農業経営の安定、発展を目指す。 また、整備された農道は有事の際に緊急輸送路となることから、地域の安全・安心にも寄与するものである。</p> <p>(2)事業の投資効果</p> <p>総便益(B)： 2,988,754千円 総費用(C)： 2,036,815千円 総費用総便益比(B/C)： 1.46 経済的内部収益率(EIRR)： 5.3</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和3年度末まで) R4年度以降残事業</p> <p>事業費ベース進捗率： 75.9% 農道：延長3,308m 事業量ベース進捗率： 50.2% 用水路：延長333m</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点2】	<p>幹線農道は拡幅改良を先行して進めてきたが、全線用地買収が済み、約6割まで改良が完了している。今後は改良済みの区間について順次舗装を施工し、幹線農道を迂回路として支線農道の整備を進める。 用水路は幹線農道の改良にあわせ幹線農道下に埋設を行っている。 区画整理工は令和元年～2年、防災安全施設工は令和2年に施工済みである。 計画どおり令和5年度に完了する見込みである。</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>					
【視点3】	<p>農道の整備により発生した残土は、区画整理における谷部の埋め立てに活用し、約1.5haの優良農地を創設している。また、近隣の耕作放棄地の再生、改植に合せた圃地整備などにも活用し、コストの縮減を図っている。</p> <p>コスト縮減・代替案立案等の可能性</p>					
対応方針	<p>(1)対応方針 本事業を(継続・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 農道の整備により通作、輸送の利便性が大幅に高まり、営農の継続、耕作放棄地の解消が図れている。農業用水の早期供用を目指し用水路工の整備を進め、防除作業のさらなる効率化を図るなど、事業を継続する。</p>					

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地整備課

事業名	畑地帯総合整備事業	地区名	重須	(おもす)	
効果の算定					
総 便 益 額 の 内 訳	作物生産効果 用水路や区画整理の整備により、耕作条件が改善され作物増収の効果が発生する。 [便 益] = 592,128 千円				
	品質向上効果 農道の整備により、悪路輸送による生産物（温州みかん等）の荷痛みが防止され、品質向上の効果が発生する。 [便 益] = 286,098 千円				
	営農経費節減効果 区画整理に伴う作付体系の変化や、農業機械の利用効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。 [便 益] = 345,761 千円				
	維持管理費節減効果 農道、用水路、区画整理内の耕作道路や用排水路などの整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 [便 益] = △ 7,775 千円				
	営農に係る走行経費節減効果 農道整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。 [便 益] = 1,690,779 千円				
	国産農産物安定供給効果 用水路や区画整理の整備による農地や水利条件の改善により、国産農産物の安定供給が図れるため、国民が感じる安心感の効果が発生する。 [便 益] = 81,763 千円				
	総便益 592,128 + 286,098 + 345,761 + -7,775 + 1,690,779 + 81,763 + 千円 0 + 0 + 0 + 0 + = 2,988,754				
	総費用 ① 事業着手時の資産価額 68,896 千円（既施設の資産額を減価償却により整理） ② 当該事業費 1,751,841 千円（当該事業で整備する施設費用） ③ 関連事業費 0 千円（当該事業に関連する施設の費用） ④ 評価期間における再整備費 450,423 千円（工事期間+40年の評価期間内の再整備費） ⑤ 評価期間終了時点の資産価額 234,345 千円（工事期間+40年の評価期間終了時の資産額） 総費用=①+②+③+④-⑤ 2,036,815 千円				
	総費用総便益比				
	①総便益				2,988,754 千円
②総費用				2,036,815 千円	
総費用総便益比 =				1.46	